

日本語教育部門

一橋大学における日本語教育は大きく5つに分類することができる。第一は、文部科学省国費研究留学生に対する日本語の予備教育を中心とする「日本語研修コース」である。第二は「教養教育科目としての日本語科目」、第三は「学部教育科目としての日本語科目」、第四は「大学院科目」、そして、第五は「春季・秋季日本語コース」である。第一と第五を除いてこれらの日本語のコースはすべて単位が認定される科目となっており、本学の日本語教育における一つの特徴となっている。また、後掲の表にあるように、日本語担当教官が各学部や研究科と連携をとりながら、センターや学部の枠にとらわれず、講義を担当していることもその特徴として挙げることができる。

1. 日本語研修コース

〈コースの概要〉

このコースは、文部科学省国費研究留学生のうちで日本語の予備教育を必要とする者（「日本語研修生」と呼ばれる）を主な対象とする。渡日時以前に日本語学習歴のない者から初中級レベルにある留学生がこのコースを受講し、半年間の日本語学習の後、本学の研究生、あるいは、大学院生となる。日本語研修生以外に、大学推薦の国費留学生、交流協定大学からの派遣学生、あるいは私費の留学生もこのコースに参加することもある。

このコースの日本語学習の目標は、学内外の日常生活に必要な日本語運用能力を獲得すること、および、それぞれ学生の特長・専門の勉強・研究活動に必要な日本語力の基礎を構築することである。本学は社会科学系の大学であり、商学、経済学、法学、社会学の各分野に進む留学生を迎えている。このコースの中級以降では学生個々の専門に対応した専門日本語教育の展開が模索されている。

16週間のコース終了後には、それに接続した日本語学習のクラスが「春季・秋季日本語コース」および、学部の科目（「教養教育科目」「学部教育科目」）の中に準備されている。例えば、学習歴をもたずに日本語研修コースに参加した学生の場合、16週間の研修コースの後、3週間の「春季・秋季日本語コース」内の、日本語初級修了レベルに合わせた、中級への橋渡しクラスで学習を継続する。さらに「春季・秋季日本語コース」を修了した本学配置の学生には、次学期に学部の科目内に、そのレベルに合った日本語クラスが用意されており、日本語学習がスムーズに継続されるよう配慮がなされている。

日本語教育のほか、異文化理解・適応に焦点を当てた授業科目として「日本の社会と文化」が98年度から開講され（木曜午後2コマ。97年度は「異文化発見ゼミナール」として開講）、日本の社会と文化を理解するための講義・工場見学・小学校訪問・伝統文化鑑賞など多彩な活動が展開されている。

〈各学期報告〉

① 第8期 (2000年4月コース 2000年4月～2000年9月)

8か国からの13名の留学生が参加。3クラス編成。7名を未習者クラス(1クラス)、3名を初級前半クラス(1クラス)、3名を初級後半～中級クラス(1クラス)とした。日本語教育担当教員は6名の専任教官、及び8名の非常勤講師(太田陽子、高橋美和子、田中久美子、福岡理恵子、丸谷しのぶ、三角友子、渡辺晴世、清水佳子)(敬称略)である。

主な教材:『初級日本語』(東京外国語大学留学生日本語教育センター)、『中級日本語』(東京外国語大学留学生日本語教育センター)、『日本語中級J501』(土岐ほか)、『日本語会話中級Ⅰ』(高柳ほか)『日本語会話中級Ⅱ』(高柳ほか)『にほんご作文の方法』(佐藤ほか)

第8期生名簿

氏 名	性別	国 籍	修了後配置先
Moni, Monir Hossain	M	バングラデシュ	経済学研究科
Pumpaisanchai, Chakkrit	M	タイ	経済学研究科
Nantamanasikarn, Porntawee	M	タイ	国際企業戦略研究科
Sosukpaibul, Sarinthorn	F	タイ	商学研究科
Meesomboonpoonsuk, Nuntawan	F	タイ	商学研究科
Nopraenue Sajjarax	F	タイ	法学研究科
Heng Sour	M	カンボジア	国際企業戦略研究科
Envall, Hans David Person	M	オーストラリア	法学研究科
Papa, Patricia Beatriz	F	アルゼンティン	法学研究科
Malinas, David Antoine	M	フランス	社会学研究科
Moutawakkil, Khalid	M	フランス	法学研究科
Sinyanskayas, Ulia Vasilhevna	F	ロシア	法学研究科
Zhang Yuan Ming (張 元明) *	M	中国	法学研究科

*私費学生

第Ⅷ期時間割

		I	II	III	IV
月	A	初級・文型語彙 (福岡)	初級・文型語彙 (福岡)	初級・会話聴解 (石黒)	初級・文字 (石黒)
	B	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初中級読解・漢字 (五味)	――
	C	中級・文型語彙 (清水)	中級・文型語彙 (清水)		――
火	A	初級・文型語彙 (福岡)	初級・文型語彙 (福岡)	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	B	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・会話聴解 (太田)	初級・文字 (太田)
	C	――	中級・読解 (五味)	――	中級・読解 (五味)
水	A	初級・文型語彙 (西谷)	初級・文型語彙 (西谷)	――	――
	B	初級・文型語彙 (庵)	初級・文型語彙 (庵)	――	――
	C	――	翻訳 (鶴田)	――	――
木	A	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・文型語彙 (丸谷)	日本の社会と文化 (横田・水野)	
	B	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・文型語彙 (渡辺)		
	C	口頭表現 (三角)	口頭表現 (三角)		
金	A	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・文型語彙 (丸谷)	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	B	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初級・会話聴解 (太田)	初級・会話聴解 (太田)
	C	口頭表現 (三角)	口頭表現 (三角)	――	――

② 第九期 (2000年10月コース 2000年4月～2000年9月)

6か国から9名の留学生が参加。3クラス編成。6名を未習者クラス(1クラス)、3名を中級レベルのクラス(2クラス)に配置した。日本語教育担当教員は6名の専任教官、及び、6名の非常勤講師(太田陽子、清水佳子、高橋美和子、田中久美子、福岡理恵子、渡辺晴世)(敬称略)

主な教材:『初級日本語』(東京外国語大学留学生日本語教育センター)、『中級から学ぶ日本語』(荒井ほか)『日本語中級J501』(土岐ほか)

第九期生名簿

氏 名	性別	国 籍	修了後配置先(所属)
Kleymmeer, Raymond	M	オランダ	商学研究科
Kapinos, Oleg Vladimirovich	M	ウズベキスタン	商学研究科
Kopper, A'kos	M	ハンガリー	経済学研究科
Naesstroem, Jens Johan	M	スウェーデン	法学研究科
Janpian, Torsak	M	タイ	社会学研究科
Utemisov, Alisher Aynazarovich	M	ウズベキスタン	国際企業戦略研究科
Shamsiev, Vosik Talikhovich*	M	ウズベキスタン	経済学研究科
Talikhovich Rasulov Ulugbek*	M	ウズベキスタン	経済学研究科
Massey, Emma**	F	イギリス	(社会学部)

*大学推薦の研究生

**交流学生

第九期時間割

		I	II	III	IV
月	A	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初級・会話聴解 (石黒)	初級・文字 (石黒)
	B	中級・文型語彙 (清水)	中級・文型語彙 (清水)	専門日本語 (経済商学分野) (庵)	---
	C	中級・文型語彙 (福岡)	中級・文型語彙 (福岡)		---
火	A	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	B	作文・発表 (太田)	作文・発表 (太田)	---	専門日本語 (法学・社会学分野)(石黒)
	C	---	---	---	
水	A	初級・文型語彙 (西谷)	初級・文型語彙 (西谷)	---	---
	B	---	翻訳 (鶴田)	---	---
	C	---		---	---
木	A	初級・文型語彙 (渡辺)	初級・文型語彙 (渡辺)	日本の社会と文化 (横田・水野)	
金	A	初級・文型語彙 (田中)	初級・文型語彙 (田中)	初級・会話聴解 (高橋)	初級・文字 (高橋)
	C	作文・口頭発表 (太田)	作文・口頭発表 (太田)	---	---

2. 教養教育科目としての日本語科目

教養教育科目として開講される日本語関係科目は広範にわたる。2000 年度は、科目数で 23、ゼミスター単位の延ベコマ数で 42 コマ（1 コマ=90 分授業が週に 1 回で、2 単位に相当）になる。以下に各科目の担当者、コマ数、対象、内容、総時間数などを表に記す。

2-1. 日本語・日本事情科目

「日本語 A」と「日本語 B」は学部 1 年次の留学生のためのクラスで、「一般日本事情Ⅰ」及び「一般日本事情Ⅱ」は主に学部 1・2 年次の留学生を対象としている。この 4 科目が狭義の「日本語・日本事情科目」と呼ばれるものである。

表 1：日本語・日本事情科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語 A（三枝、鶴田）	2 コマ ／週	学部 1 年の留学生	社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成。特に教科書等を正確に読みこなし、講義を聞いて理解する訓練をする。	夏学期開講 60 時間
日本語 B（松岡、西谷）	2 コマ ／週	上に同じ	「日本語 A」に続いて高度な日本語能力を養成する。	冬学期開講 60 時間
一般日本事情Ⅰ（松岡）	1 コマ ／週	主に学部 1,2 年の留学生	日本人が常識として知っている歴史上の知識や事柄の中から、話題性のあるもの、日常生活で必要なものを取り上げる。	夏学期開講 30 時間
一般日本事情Ⅱ（五味）	1 コマ ／週	上に同じ	現代日本に焦点を絞り、現代日本社会の理解に役立つ歴史的な事柄を扱う。	冬学期開講 30 時間

2-2. 全留学生対象の日本語科目

「日本語中級・前」から「日本語選択・日本語講読」までの 19 科目は、単位取得が可能な正規科目として、交流学生（交流協定校からの 1 年の短期留学生）、研究生（日本語研修コース修了生を含む）、日本語日本文化研修生（略称「日研生」）、学部 1・2 年生、大学院正規生など、全カテゴリーの留学生がレベルとニーズにふさわしいものを履修している。

このうち、「日本語中級・前」から「日本語上級・後」の 5 科目は、レベル別の「基本科目」、それ以外は技能別の「選択科目」である。前者のクラス編成はプレースメント・テストの結果等をもとに行われている。後者は、学習者がそれぞれのニーズによって履修するものである。1997 年度から 1999 年度まで休講していた「日本語選択・口頭表現」は 2000 年度には「日本語選択・口頭表現Ⅰ」と「日本語選択・口頭表現Ⅱ」という二つのレベルで開講することになった。また、「日本語選択・中級読解Ⅰ」「日本語選択・中級読解Ⅱ」

「日本語選択・社会科学の基礎語彙」「日本語選択・法学の基礎語彙」が新設された。それにともない、「日本語選択・日本語講読Ⅰ」「日本語選択・日本語講読Ⅱ」は「日本語選択・上級読解Ⅰ」「日本語選択・上級読解Ⅱ」にそれぞれ名称変更された。なお、2000 年度の非常勤講師は、梅岡巳香、清水佳子、立野みどりであった。

表2：基本科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語中級・前 (鶴田、立野)	4コマ ／週	主に交流学生、 研究生	教科書に沿って中級前期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、合わせて大学生活に必要な会話力や聴解力を習得する。	夏と冬に並行開講 各 120 時間
日本語中級・中 (清水)	2コマ ／週	上に同じ	教科書に沿って中級中期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、視聴覚教材を利用しながら読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各 60 時間
日本語中級・後 (梅岡)	2コマ ／週	上に同じ	教科書に沿って中級後期レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、視聴覚教材を利用しながら読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各 60 時間
日本語上級・前 (三枝)	2コマ ／週	上に同じ	教科書やビデオ教材を利用しながら上級前半レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、読解力や聴解力を向上させる。	夏と冬に並行開講 各 60 時間
日本語上級・後 (今村)	2コマ ／週	主に交流学生、 研究生、学部1、 2年生	教科書や新聞、社会科学文献、ビデオ教材を利用して、上級後半レベルの文法・漢字・語彙をマスターし、読解力や聴解力、議論の技術を向上させる。	夏と冬に並行開講 各 60 時間

表3：選択科目

科目(担当者)	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語選択・文章表現Ⅰ (夏：三枝、冬：鶴田)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生(中級)	社会科学系の論文を書く際に必要な基本的文型や表現・語彙を習得し、論理的な文章をふさわしい文体で書けるようにする。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・文章表現Ⅱ (夏：石黒、冬：松岡)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生、学部1、2 年生(上級)	上の練習に加え、説得力ある文章を書くための論文構成の技術を習得するとともに分かりやすく簡潔な要約の訓練をする。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・文法Ⅰ(夏： 庵、冬：三枝)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生(中級)	中級レベルの文法力を確実なものにする。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・文法Ⅱ(夏： 三枝、冬：庵)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生(上級)	中・上級レベルの文法力を確実なものにする。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・口頭表現Ⅰ (西谷)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生(中級中)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。 中級中期レベルの運用能力をつける。	冬学期開講 30 時間
日本語選択・口頭表現Ⅱ (西谷)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生(中級後)	大学生活で自然な日本語が使えるようにする。 中級後期レベルの運用能力をつける。	冬学期開講 30 時間
日本語選択・中級読解Ⅰ (夏：庵、冬：五味)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生(中級中)	新聞、雑誌、新書などを材料に、中級中期レベルの基本的読解力をつける。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・中級読解Ⅱ (夏：五味、冬：庵)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生(中級後)	新聞、雑誌、新書などを材料に、中級後期レベルの基本的読解力をつける。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・漢字 CAI (夏：庵、冬：石黒)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生(中級)	中級漢字の読み能力を向上させ、日本語ワープロで作文練習をする。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・翻訳の日本語 (鶴田)	1コマ ／週	交流学生、 研究生、学部1、2 年生(上級)	主に社会科学系の英語文献を日本語に翻訳する際の技術を習得する。	冬学期開講 30 時間
日本語選択・上級読解Ⅰ (松岡)	1コマ ／週	主に学部2年生 (上級)	社会・人文科学分野の新書や論文の抜粋を読み、社会・人文科学分野の基本概念に触れる。	夏学期開講 30 時間
日本語選択・上級読解Ⅱ (今村)	1コマ ／週	主に学部2年生 (上級)	社会・人文科学分野の新書や論文の抜粋を読み、社会・人文科学分野の基本概念に触れる。	冬学期開講 30 時間
日本語選択・社会科学の 基礎語彙(夏：今村、 冬：石黒)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生(中級)	社会科学の勉強・研究に必要な基礎語彙をテキストやプリントを用いて学ぶ。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
日本語選択・法学の基礎 語彙(三枝)	1コマ ／週	主に交流学生、 研究生(中級)	法学の勉強・研究に必要な基礎的な表現を、法学のテキストや判例を用いて学ぶ。	冬学期開講 30 時間

2-3. 学部の日本語関係科目（全学生対象）

「現代日本語論Ⅰ」「現代日本語論Ⅱ」「教養ゼミ：外から見た日本語」「共通ゼミ：日本語・日本語教育」は、留学生を含む、学部生一般を対象とした教養科目であり、「共通ゼミ：現代日本語」は主に日本語日本文化研修生を対象とした科目である。

表4：学部の日本語関係科目（全学生対象）

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
現代日本語論Ⅰ （鶴田）	1コマ ／週	留学生を含む 学部1,2年生	言語システムそのものではなく言語を人々がどのように使うかに焦点を当てる。	夏学期開講 30時間
現代日本語論Ⅱ （庵）	1コマ ／週	上に同じ	一般の学生にも身近な文法現象を取り上げ最新の研究成果とともに紹介する。	冬学期開講 30時間
共通ゼミ：日本語・日本語教育（今村）	1コマ ／週	学部3・4年生	外国人に教える視点から現代日本語文法を考える。	通年開講 60時間
共通ゼミ：現代日本語（松岡）	1コマ ／週	主に日研生	日本語、日本文化の基本文献を講読する。	通年開講 60時間

3. 学部教育科目としての日本語科目

学部教育の枠組みでは、経済学部において「経済の日本語」（週2コマ）、社会学部において「社会・人文の日本語Ⅰ」、「社会・人文の日本語Ⅱ」（それぞれ週1コマ）が開講されている。いずれも経済学部あるいは社会学部における専門日本語力の向上を図るために開設されたものだが、他学部生も履修することができる。

表5：学部教育科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済の日本語（夏：今村、冬：西谷）	1コマ ／週	主に経済学部 の交流学生、研 究生（中級）	経済学を中心とする社会科学の分野で使われる語彙・表現をテキストを用いて学習するほか、日本経済新聞などの記事も講読する。	夏と冬に並行 開講 各60時間
社会・人文の日本語Ⅰ（庵）	1コマ ／週	主に社会学部 の交流学生、 日研生、研究 生（上級）	社会・人文科学の代表的論文を読み、論文特有の表現を理解し使用できるようにするとともに社会・人文科学分野の基礎概念を習得する。	夏学期開講 30時間
社会・人文の日本語Ⅱ（河野）	1コマ ／週	上に同じ	「社会・人文の日本語Ⅰ」の内容をさらに深める。	冬学期開講 30時間

4. 大学院科目

「経済専門文献日本語」が経済学研究科で、「法言語文化論」が法学研究科で、「専門日本語」と「日本語教育論」が社会学研究科で開講されている。

表6：大学院科目

科目（担当者）	コマ数	対象	授業内容・到達目標	時期・時間数
経済専門文献日本語（今村）	1コマ ／週	主に経済学研究科の修士、博士課程の留学生	経済専門文献日本語の理解における落とし穴に目を向け、言語表現に現れる筆者の視点や立場を読みとる。同時に論文執筆、発表の技術にも触れる。	夏と冬に並行開講 各 30 時間
法言語文化論（三枝）	1コマ ／週	主に法学研究科の修士、博士課程の留学生	憲法を一つの手がかりとして、日本人の思想・行動をいくつかの国と比較しながら考える。	通年開講 60 時間
総合社会科学専門日本語（松岡）	1コマ ／週	主に社会学研究科と言語社会研究科の修士、博士課程の留学生	近代の日本語の文章を文法的に正確に読み解く練習を行う。文語文法の基礎と歴史的仮名遣いを概観し『日本近代思想体系』の文章、あるいは受講生の専門分野から文章を抜粋して読む。	夏学期開講 30 時間
日本語教育論（松岡）	1コマ ／週	主に社会学研究科と言語社会研究科の学生	言語教育関連の諸分野における最新の成果が、日本語教育のための理論としてどこまで有効であるかを検証する。また、教育実習的なものも含める。	冬学期開講 30 時間

5. 補講としての日本語（春季・秋季日本語コース）

正規のカリキュラム外に開講されるもので、単位の認定は行われない。2000 年度は9月と3月に3週間の集中コースが開かれた。対象者は、センターの日本語研修生や渡日直後の交流学生、日本語能力向上を目指す在学生で、そのクラス編成、担当者、内容、使用教材は以下の通り。

表7：2000 年度秋季日本語コース（2000 年9月4日～22日、全70時間）

クラス（担当者）	内容・目標	使用教材
Aクラス （三角、太田、小林）	初級文法・漢字・語彙を確認しながら中級への橋渡しと聴解力の向上を目指す。	・「J-Bridge（九大試用版）」 九州大学留学生センター
Bクラス （高橋、熊野、中川）	中級前期学習者の読解力・聴解力・会話力の向上を目指す。	・「中級から学ぶ日本語」 大阪YMCA日本語学校
Cクラス （浅田、熊田）	読解力・聴解力を中心に中級から上級への橋渡しをする。	・「日本語中級J501」 スリーエーネットワーク
翻訳クラス （中川、小林）	上級学習者が経済学・商学に関する英文を日本語に翻訳する力を伸ばす。	・各種英文抜粋

なお、同期間中に経済学研究科の主催で「経済学・商学の日本語クラス（上級）」が開かれた。

表 8 : 2000 年度春季日本語コース (2001 年 3 月 5 日～23 日、全 75 時間)

クラス (担当者)	内容・目標	使用教材
A クラス (立野、三角、北岡)	初級文法・漢字・語彙を確認し ながら聴 解力 の向上を目指し、中級文法へと橋渡 しする。	・「楽しく読もうⅡ」 文化外国語専門学校 ・「Basic Kanji Book Vol.2」 筑波大学留学生教育センター
B-1 クラス (田中、梅岡)	初級文法・漢字・語彙を確認しながら聴 解力の向上を目指し、中級文法へと橋渡 しする。	・「J-Bridge (九大試用版)」 九州大学留学生センター ・「Basic Kanji Book Vol.2」 筑波大学留学生教育センター
B-2 クラス (渡辺、太田)	中級前期学習者の読解力・聴解力・会話 力の向上を目指す。	・「日本語中級 J 5 0 1」 スリーエーネットワーク
B-3 クラス (高橋、清水)	中級後期学習者の読解力・聴解力・会話 力の向上を目指す。	・「中級から上級への日本語」 スリーエーネットワーク
翻訳クラス (中川)	上級学習者が経済学・商学に関する英文を 日本語に翻訳する力を伸ばす。	・各種英文抜粋

なお、同期間中に経済学研究科の主催で「経済学・商学の日本語クラス (上級)」が開かれた。

(鶴田庸子、今村和宏)